

がん化学療法個人計画書

患者の状態により輸液の内容・量及び投与速度を変更する場合があります。

科名	適応がん種	レジメン名
	CD20陽性の濾胞性リンパ腫	G-ベンダムスチン
投与予定	休薬を含めて1クール 28 日 6 クール施行	

Rp	薬品名	申請投与量	計算量	実際の投与量	手技・用法	投与時間	投与日 (day-)				6クール施行後 維持療法 2ヶ月に1回
							1	2	8	15	
1	生食	50ml			点滴静注	5分	↓		↓	↓	↓
2	生食 メチルプレドニゾン	20ml 80mg			静注		↓		↓	↓	↓
3	生食 オビヌツズマブ	210ml 1000 mg/body		mg/body	点滴静注	医師の指示通り	↓		↓	↓	↓
4	グラニセロンバッグ デキサメタゾン	3mg/100ml 6.6mg			点滴静注	30分	↓	↓			
★プライミングフラッシュ生食必要★											
5	ベンダムスチン 生食 250ml	90 mg/ml	#REF! mg/body	mg/body	点滴静注	60分	↓	↓			
				※実際に投与する生食量はベンダムスチン液量分を減量→	実際の投与量 ml						
6	生食 ◎ベンダムスチンと同時投与	250ml			点滴静注	60分	↓	↓			
7	生食	50ml			点滴静注	5分			↓	↓	↓

Rp	薬品名	薬価最小組み合わせ	備考
3	オビヌツズマブ		<ul style="list-style-type: none"> 希釈液として生食以外は使用しないこと。 オビヌツズマブ1000mg/40mlを生食210mlを希釈し計250mlとする。12.5ml/hの投与速度で開始し、Infusion reactionが認められなかった場合には、投与速度を以下のように変更することができる。 初回投与：12.5ml/hで開始し、30分毎に12.5ml/hずつ、最大100ml/hまで上げることができる。 2回目以降：前回の投与でGrade2以上の、Infusion reactionが発現しなかった場合は、25ml/hで開始し、30分毎に25ml/hずつ、最大100ml/hまで上げることができる。 2クール目以降：1クール目の投与でGrade3以上のinfusion reactionが発現しなかった場合は、最初の30分は25ml/hで開始し、その後最大225ml/hまで上げることができる。なお、前回の投与でGrade3のinfusion reactionが発現した場合は、初回投与時の速度で行うこと。
5	ベンダムスチン		生食はベンダムスチン液量分を250mlより減量すること。

併用内服薬	用量(1日量)	用法	投与期間
イブプロフェン	100mg	オビヌツズマブ 投与30分前	day1 (1クール目は day1.8.15)
d-クロルフェニラミン	2mg		

オビヌツズマブ投与時には0.2又は0.22 μmのインラインフィルターを使用すること。

備考	
----	--

G-ベンダムスチン療法を最大6コース施行後に、2ヶ月に1回最長2年間(最大12回)のオビヌツズマブ維持療法に移行。